



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第10回例会(9月11日)
平成27年9月25日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳アパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 岩野 法光
幹 事 吉江 信博
会 報 福田 荘介
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Be a gift to the world. '世界へのプレゼントになろう'…………… K. R. ラビンドラン

ゲスト卓話



「岩手ビッグブルズの今後」

(株)スポーツプロモーション 代表取締役社長

山口 和彦様

本来であれば去る8月29日に新リーグ・ジャパンプロフェッショナルバスケットボールリーグ(JPBL)の最終振り分けでトップリーグ1部に参入したお祝いの会となるべきだったとお聞きしております。私共の力不足を心よりお詫び申し上げます。

今回の新リーグ統一問題が何で起きたかといえますとそもそも日本にはプロリーグは1つ(「バスケットボール日本リーグ」後の「日本バスケットボールリーグ」)しかなかったのですが、そのプロリーグというのが大手企業が自分たちの広告塔としてまた企業の厚生福利事業の一環として作った企業チームが中心となっていました。その中には企業チームではない地域密着のチームも存在していました。

地域密着のチームは、大手企業のような庇護もなく、地域の人たちがチームを支え、その試合を見て、そのチームが強くなることで地域住民が元気になり、地域活性化、地域振興につなげようと考えていました。

その人たちは①プロフェッショナルで②スポーツエンターテイメント性があり、そして③グローバル&コミュニティのあるリーグ作りを標榜し、2004年(平成16年)に「バスケットボール日本リーグ」から脱退し、新たに「日本プロ

バスケットボールリーグ」(bjリーグ)を立ち上げました。それが新潟、埼玉の2チームです。その後仙台、東京、大阪、大分の4チームが合流し、6チームでbjリーグが発足しました。bjリーグの理念に賛同し、各地で新規参入の動きが続出し、今シーズンは全国各地に24のチームとなりました。

日本のバスケットボールプロリーグにはそのbjリーグのほかに企業チーム中心の「日本バスケットボールリーグ」があり、1部リーグのNBL13チームとその下部リーグのNBDL9チームがありました。

国際バスケットボール連盟配下の各国にはプロリーグは1つしか存在しないのですが日本だけは日本バスケットボール協会が国内プロリーグ2つを認めていることが前々から問題になっていました。

このため国際バスケットボール連盟(FIBA)から一本化するよう再三にわたって勧告を受けていましたが、なかなか協会がガバナンスがうまく機能せず統合されていなかった状況でした。しかし2020年の東京オリンピックを控え、FIBAは、昨年10月までにリーグを一本化しない場合は、開催国でありながら東京オリンピックの日本出場を認めないとしていました。

しかし日本バスケットボール協会の方では統合が実現できませんでした。そしてFIBAからは男子だけでなく、女子や学生など全ての日本の対国際試合の出場が禁止されてしまいました。

これを受けて文部科学省、FIBAが危機感をもちこの事態を取捨できる人は日本バスケットボール界にはいないと判断し、Jリーグを立ち上げた経験を持つ川淵三郎さんに白羽の矢をたて、了承をとり、早速1月27日に川淵さんをチェアマンに「ジャパン2024タスクフォース」を立ち上げました。今回は東京オリンピックが2020年、そしてそのアジア予選とかその前のリオデジャネイロのオリンピック予選を考慮すると2015年（平成27年）6月までに対外制裁を解除しなければならないとのことから大変ハードなスケジュールでの取り組みとなりました。

その後、川淵さんの強力なリーダーシップで各リーグとの綿密な打ち合わせのもとで4月1日に新リーグ「日本プロフェッショナルバスケットボールリーグ」（JPBL）が発足し、4月3日から新リーグ参入申し込みを開始したところでした。

6月2日に4クラブを除く43チームの新リーグ参入が決定し、6月末に日本の国際対外試合停止は解除となりました。

新リーグの階層振り分けは、第1回が7月30日に、第2回目が8月29日に行われ、新リーグ1部並びに2部が決定し、新リーグの名称も「Bリーグ」と決まったところです。今回新リーグ参入に当たってかなり高いハードルがあり、①トップリーグ1部を目指す場合の条件として①5,000人収容のホームアリーナを有し、しかもホームアリーナ開催は8割以上であること②債務超過がないこと③年間売上額が2億5千万円以上であることでありました。

実はこの条件は、参入までに実現できればいいということでもよかったのですが、7月の階層

分けでトップリーグ1部は、12チームが決まりました。トップリーグ1部は、残り何チームになるかの中で1部入りの可能性があるチームが15チームであったことから各チームでどんどん前倒しで条件をクリアしていくための熾烈な争いが行われました。

JPBLのヒアリングの際に岩手ビッグブルズにはファンクラブの獲得による観客の増員と年間売上額の増加がテーマとされ、8月の1ヶ月間にファンクラブ会員を1万人集めたら1部入りの可能性が高いとのことから、早速、岩手県バスケットボール協会と共同で「ファンクラブ会員1万人プロジェクト」を実施する事にしました。これは球団創設以来はじめての取り組みでしたが、知事、盛岡市長さんはじめ県民の皆様の熱いご支援によりわずか20日あまりで目標の10,000人を達成することができました。

お盆休みなどご多忙の中、皆様にご対応いただきました事、心より感謝申し上げます。現在会員数は12,000人を超えており、まだ入会者の伸びは続いております。

日本バスケットボール協会でも岩手の底力にびっくりしており、川淵さんからも次回はぜひがんばって1部にあがってもらいたいと励ましていただきました。

しかし、階層分け最終の局面での競争の中で年間売上額、財政基盤もトップリーグ1部入りの基準を上回ることができましたが、1部入りしたチームに比べて財務面での支援体制などで差がついたのかなと思っています。単なる金額提示だけでなくその裏付けとなる契約書や確約書の提示も求められましたので今シーズンは球団にとってもかなりきついハードルとなりますが全力で取り組んで参ります。

皆様のお力をバネにして、一緒によりよい球団を作り上げ、2017 - 2018シーズンは、胸を張って「Bリーグ1部入り」をしたいと考えております。

そのためには、まず、2部決定を真摯に受け

止め、当球団に何が足りなかったのか、今後それをどう補っていくのかを真剣に模索し、必ず実行に移して参ります。

そしてファン（ブースター）の皆様が誇りを持って応援する球団、そして光り輝くチームを目指して参ります。先ずは、TKbj リーグ最後の年である今シーズンのファイナルに出場し、来年の新リーグでは2部トップの成績を収め、

入れ替え戦に挑めるようになりたいと考えています。

私たち岩手ビッグブルズは、「地域の皆様が誇りに思っていた頂き、子供たちが夢と希望を感じられる球団」を目指して日々活動して参ります。今後とも暖かいご支援を岩手ビッグブルズに賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ロータリーにNOはない

先輩会員が、「ロータリーにNOはない」と言っているのを聞いた事がありますか。ロータリーの中で、何かの役職を頼みたい時、奉仕活動を手伝ってもらう時など、頼み事を断られると、「ロータリーにNOはない」というこのセリフが飛び出してくる事があります。

「モノを頼んでおきながら、なんて失礼な言い方なんだろう」とか「全く強引な人だ」なんて腹を立てたりしないでください。その人は、あなたを見込んで、あなたの能力を信じて頼んでいるのですから。「自分たちがロータリーに入った頃は、『ロータリーにNOはない』と言われて断わる事なんかできなかったのに、最近の人たちは平気で断わってくると、言っている年配の会員を時々見かけます。クラブ会長や幹事、委員長などの役職に就くと、いろいろな仕事が舞い込んでくるので、そんな事はやりたくないと思われている方も多いかも知れません。せっかくの休みをつぶして奉仕活動に付き合うのは、ごめんだと思われている方も多いかも知れません。しかし、これらの事は、あなたに断られたからやめればいいというものではないのです。あなたが断れば、必ず別の誰かがやらなくてはならなくなるのです。そして大抵の場合、それはいつも同じ人に、つまり頼まれ事を断る事のできない人に回ってくる事になります。あなたも仕事が忙しいかも知れませんが、家族との約束もあるかも知れませんが、その人も同じように忙しい事でしょう。

ロータリーで、「忙しい」というのは、仕事を断る理由にはなりません。忙しい人がいっぱいいるからです。「忙しい時間を上手にコ

ントロールして活動の時間をつくる事も大切。それも勉強のうち」という言葉も、ロータリーではよく耳にします。うまく断る事ができたら、あなたは「良かった」と思うかもしれませんが、実は、ロータリーでの大きなチャンスを逃してしまっているかも知れません。

入会したばかりの頃は、ほとんど知った人がいなくて、戸惑う事ばかりだと思えます。誰に聞いたらいいかすらわからないでしょう。でも、共に活動をする事により、先輩会員はあなたの事を覚えてくれます。共に活動をする事により、あなたの事を仲間だと思ってくれるでしょう。そうなれば、クラブにあなたの居場所ができていきます。共に活動すれば、例会の始まる前や終わった後で、先輩たちの仕事や趣味の話、さまざまなロータリーの話聞く事ができるようになるでしょう。あなたがクラブでしてみたい活動について話をする機会に恵まれるでしょう。「NO」と言わずにロータリーの活動をしている人たちは、ロータリーの本当の楽しさを知っているのかも知れません。ロータリーで仲間をつくる事の喜びを体験しているのかも知れません。「ロータリーにNOはない」と言っている先輩会員は、「NO」を言わなかったおかげで、何か良い事があったという経験の持ち主で、あなたにもその経験をしてほしいと願っているのかも知れません。入会したものの、ロータリーの事がよくわからない、ロータリーにうまくなじめないと考えているあなたは、「忙しいからできない」という言葉のみ込んで、自ら率先して仕事を引き受けてみてはいかがでしょうか。

〈ロータリーの友より抜粋〉

盛岡組 完勝～第3回南部杯ゴルフ会

今年は例年より1週間遅い、9月4日(金)那須ゴルフ倶楽部で開催。

秋雨前線が停滞、空模様心配だったが、盛岡4名東京4名の会員会友の行いが良く、快晴、涼風が気持ちいい。

3連敗だけは避けたい東京勢だったが、力及ばず盛岡の完勝となった。特に初参加でこの5月から10数年ぶりに再開した白石さんが優勝の他、荒稼ぎ、2位樋山、3位田中、BB小川と全ての賞金をゲット。

那須牛のすき焼きと地酒を堪能、お互いが近況を報告交歓が続いた。

特に小川さんのお元氣さには敬服、超高反発の“リョウマ”が更に精度アップされれば…との声が多かった。

来年は気分を変え、岩手ゴルフ倶楽部で盛

岡、仙台からも沢山の参加で8月最終週の金曜日に開催との案が大きな拍手で承認された。

やはり、会員は会友より強しとの思いを胸に初秋の那須を後にした。(文責 小西隆昭)



例会報告

第10回例会
平成27年9月11日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘

- ・司会 岩野法光会長
- ・ソング 我らの生業
- ・四つのテスト斉唱
- ・ゲスト 山口和彦様(岩手スポーツプロモーション 代表取締役社長)
- ・会長報告 岩野法光会長
- ・幹事報告 吉江信博幹事

【ニコニコBOX】

◆駒木 進君…山口和彦様、公私ともにお世話になっております。また、公私ともにお忙しい中、本日は素晴らしい卓話、本当にありがとうございました。感謝の気持ちで一杯です。今後益々のご活躍をご祈念致します。

◆白石 茂君…9月4日第3回南部杯ゴルフコンペが那須ゴルフ倶楽部にて行われました。当日の天気予報が曇り時々雨の予想でしたが見事に外れ、思いがけず暑くもなく寒くもない天気の中で行われました。盛岡組4名と東京組4名の2組で行われ、楽しいゴルフとなりました。結果は初参加の私が天気と同伴者とそしてハンディに恵まれて優勝となりました。腰痛でゴルフをやめて10年ほどになりますが、会社のほうも息子にバトンタッチしたので今シーズンから再開し、スコアは大分悪かったのですが隠しホールで大たたきしたおかげでした。3連敗の東京組が悔しかったことを併せてご報告いたします。

◆小川 惇君…奇跡的に晴天に恵まれた名門那須ゴルフ倶楽部での南部杯は久しぶりにゴルフを再開した白石さんが優勝し、盛岡勢が3年連続優勝となりました。来年は南部さんが理事長をしている新

山に決まりましたので多くの参加をお願いします。なお、私は昨年優勝、今年はブービーでした。

◆勝部民男君…山口和彦さんの卓話にお礼してニコニコします。山口さんとは、小学校、高校と同級生でした。県庁時代は(役人)らしからぬ姿勢で民活に力を尽くした人でした。来期こそブルズ昇格を願っています。

◆福井誠司君…皆様のご支援を頂き本日笑顔で出席する事ができました。ありがとうございます。ロータリー会員の議員として常に“四つのテスト”を心に宿し活動していきます。そしてビッグブルズもしっかり応援していきます。

●メークアップ

盛岡北R.C.=藤村(文)・平賀・九萬原君。盛岡東R.C.=熊谷(祐)君。盛岡中央R.C.=岡本君。盛岡西北R.C.=佐藤(善)君。クラブ委員会=星君。

出席報告 □ 会員数 /72名 □ 出席数 /45名 □ 出席率 /66.17% □ 前々回 /74.62%

プログラムの
お知らせ ・9月18日(金) 特別休会
25日(金) 新入会員卓話 平賀和幸会員

- 本号編集担当 / 福井 誠司
- 次号編集担当 / 佐藤 善通